

東京家政大学健康科学部看護学科 カリキュラムツリー (令和4年度以降入学生)

**【育成する人材】**  
 建学の精神「自主自律」としての職業的自律性を礎とし、生命の尊厳を守り、科学的根拠に基づかれた知識・技術を用い、あらゆる年代における人々が「その人らしく生活する」を支えるために必要な能力を備えた看護専門職者

**【育成する人材像】**  
 看護師：人々の多種多様なニーズに対応できる看護の専門知識を有し質の高い支援ができる看護実践者。  
 保健師：地域活動、健康教育、保健指導等の看護活動を通して、地域社会で生活する人々の疾病予防、健康課題、問題を組織的に解決・支援できる公衆衛生看護の実践者。  
 助産師：妊娠・出産・産褥期にある女性と胎児・新生児が自然で安全に経過する助産ケアが提供できる看護実践者。また周産期医療システムにおける助産業務の遂行者。

アドミッションポリシー	カリキュラムポリシー	1年次 看護職者としての意識を養う		2年次 疾病と看護方法の基礎知識を学ぶ		3年次 看護実践を学ぶ		4年次 看護の統合と看護実践力の向上を図る		ディプロマポリシー	就職先		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
<b>知識・技能</b> 1. 看護に必要なコミュニケーション能力(読む・書く・話す)の基礎としての「国語」・「英語」、また生命現象を理解するための「生物」・「化学」に興味心がある。 2. 積極的に学習を行っていて、国語・数学・英語・理科(生物・化学)の基礎的な学力を有している。 <b>読解力・判断力・整理力</b> 3. 他者の話をしっかりと聴き、理解し、判断できる。その上で自分の考えを表現することができる。 <b>主体性・多感性・協働性</b> 4. 看護に興味心がある。 5. 問題意識を持ち、解決に向けた主体的に取り組むことができる。 6. 多様な人とコミュニケーションをとり、協働することができる。 7. 健康な生活習慣を心がけている。	<b>教育課程編成の全体方針</b> 看護学科が掲げるディプロマポリシーの実現と保健師、保健師、助産師の国家試験受験資格を取得するための保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づきカリキュラムを編成している。 いのちの誕生から老いて、あらゆる年代における人々が住み慣れた自宅や地域で「その人らしく生活する」を支えるために、専攻する「医療」の視点と、生きていく喜びである「生活」の両方の視点から、その人を支えることに価値を置き健康の保持増進と生活の質を向上させる看護実践力を有する専門職者として、また保健医療福祉の発展と向上に貢献できるように、各年次において段階を踏った講義・演習・実習科目を配置します。 <b>履修内容</b> 1. 基礎教養分野は、幅広く深い視野と判断力を持ち、豊かな人間性を涵養することを目的として「コア科目」<人間と社会・文化><人間と自然><人間と情報><人間と言語>の各区分に科目を配置します。コア科目は、建学の精神「自主自律」の醸成、学びの基盤を形成するための「スタートアップセミナー」自主自律科目を、「キャリア発達」を促すための「キャリアデザイン」科目を配置します。 2. 専門基礎分野は、<心身の構造と機能・疾病からの回復><社会の構造と機能>の各区分に、臨床判断能力の基盤となる医学的知識、健康維持・増進させるための保健医療福祉に関する知識を修得するための科目を配置します。 3. 専門分野は、誕生から老い(死)まで、あらゆる年代の人々が住み慣れた自宅や地域で「その人らしく生活し、その人らしくを全うできる」を支えるために、個々のケアから地域包括ケアに必要な知識・技術、高い倫理観(態度)を修得するための科目を系統的に配置します。看護の集大成として、「看護とは」を常に問い追求し続ける姿勢、将来、臨床現場や地域で求められる「リーダーシップ、国際的な視野等」を学ぶ科目を配置します。 4. 臨地実習は、医療から地域における生活の場への拡大に伴い、保健指導能力、臨床判断能力、多職種と協働する能力、地域・家族をみる能力を修得できる内容で構成します。1年次早期、看護の学習基盤を形成するために、フールド体験実習を実施します。4年次は、看護の専門性の深化と実践力の向上を目指して、3週間の統合実習を配置します。	コア科目	スタートアップセミナー 自主自律 キャリアデザイン(3回)	キャリアデザイン(2回)	キャリアデザイン(2回)	キャリアデザイン(2回)	キャリアデザイン(1回)	キャリアデザイン(2回)	キャリアデザイン(2回)	<b>【5つの能力】</b> ① <b>生命の尊厳と人格を尊重した看護の実践力</b> ② <b>健康の保持増進と生活の質を維持する看護の実践力</b> ③ <b>保健医療福祉において多職種間および地域と協働・連携できる能力</b> ④ <b>看護の探究心と研究的姿勢</b> ⑤ <b>国際的視野から行動する力を4年間で修得します。</b> 近代看護の担い手インテグラーの承擔「看護は人を見る。人を看護する。人を見ることは、その人の思いを感じることと基礎として、患者とその家族が「その人らしく生活する」を支える看護が実践できる学生に対して学位(看護学)を授与するものとします。 <b>知識・技能</b> 1. 人間理解を基礎として、健康に関する看護の基本が身につくこと。 2. 援助的人間関係を基盤に人の誕生から老い(死)までの過程における健康課題に対して取り組むことができる。 3. 健康の保持増進、疾病予防、健康障害からの回復に向けた看護が、専門的知識・技術を用いて、科学的根拠に基づき実施できる。 <b>思考力・判断力・表現力</b> 4. 看護の対象である人を身体的・精神的・社会的側面を統合して理解する基礎力が身につくこと。 5. 人の自由と権利を尊重し、いかなる場合でも看護職者としての役割を倫理的に判断し、行動できる。 6. “看護”を意図的に問い続け、自ら発見した看護に関する課題に対して研究的に取り組み、看護の現象を科学的に追求する姿勢を継続できる。 <b>主体性・多感性・協働性</b> 7. 看護の対象である人々を思いやる人間性をもち、社会と積極的に関わっていく高いコミュニケーション能力を身につけている。 8. 質の高い医療の提供に向って地域等の様々な資源を活用するとともに、患者・家族を取り巻く多職種間を調整する役割を果たすことができる基礎力もっている。 9. 諸外国の医療・看護の課題、看護事情に関心を持ち、専門職者として国内外で活躍するための基礎力もっている。	国立病院 大学附属病院 赤十字病院 医療センター 周産期母子センター 訪問看護ステーション 地域包括支援センター 市町村 都道府県 学校 企業の健康管理部門 健康保険組合 など		
		基礎教養科目	人間と社会・文化	生命倫理 家族社会学 家族社会学 人間関係論 コミュニケーション論 心理学 発達心理学	日本国憲法 多文化理解	体育(講義・実技)	医療経済学	国際関係論	看護情報学			中国語	
		人間と自然	環境科学 物理学概論 化学概論 生化学	生命科学 神経科学	遺伝学	栄養学	看護情報学						
		人間と情報		基礎統計・情報処理 ヒューマンロボティクス 日本語表現		コンピュータと医療							
		人間と言語	英語A	英語B	医療英会話	看護・医学英語							
		専門基礎科目	身体の構造と機能 疾病からの回復	形態機能学 疾病治療論Ⅰ 疾病治療論Ⅱ	リハビリテーション概論 理学療法論Ⅲ 疾病治療論Ⅳ 疾病治療論Ⅴ	疾病治療論Ⅴ 疾病治療論Ⅵ	感染症疫学 精神薬理学 臨床心理学					カウンセリング論	
			社会の構造と機能	公衆衛生学	健康教育	関係法規 社会保険概論 保健医療福祉行政論Ⅰ ボランティア活動論	疫学 地域保健 保健医療福祉行政論Ⅱ	保健統計	保健医療福祉行政論Ⅲ			産業保健 学校保健	
			基礎看護学	看護学概論 救急看護法 看護の基本技術Ⅰ	看護理論 看護の基本技術Ⅱ ヘルスアセスメント 基礎看護の実践Ⅰ	看護の基本技術Ⅲ 看護過程	看護倫理						
			地域・在宅看護論	健康・生活・地域実習	地域・在宅看護学概論Ⅰ	地域・在宅看護学概論Ⅱ	地域・在宅看護方法論	地域・在宅看護の実践					
			母性看護学			母性看護学概論	母性看護方法論	母性看護の実践					
			小児看護学			小児看護学概論	小児看護方法論	小児看護の実践					
			成人看護学		成人看護学概論	成人看護方法論Ⅰ	成人看護方法論Ⅱ	成人看護の実践					
老年看護学				老年看護学概論	老年看護方法論	老年看護の実践							
精神看護学				ノーマライゼーション 精神看護学概論	精神看護方法論	精神看護の実践							
看護の統合と実践			災害看護Ⅰ			看護研究Ⅰ		看護管理 看護教育 災害看護Ⅱ 統合実習	国際看護 看護研究Ⅱ				
保健師課程	公衆衛生看護学				公衆衛生看護学概論		公衆衛生看護活動論Ⅰ 公衆衛生看護活動論Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ	公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護活動論Ⅲ 公衆衛生看護学実習Ⅲ					
助産師課程	助産学				助産学概論		周産期医学 助産診断・技術学の基礎 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学Ⅳ 地域母子保健 助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ、助産学実習Ⅲ	助産管理					